

県 広 報

とやま

TOYAMA PREFECTURAL REPORT

特集/知事対談

—とやまの観光を語る—



INTERVIEW

ひととやま
とやま

オーケストラ奏者として さらに磨きを

新星日本交響楽団トランペット奏者

高橋 敦さん



「小学校五年生で管楽器クラブに入りましたが、たまたまトランペットが余っていたんです。今思えば、あれが運命の分かれ目だったんですね」と語るのは、福野町出身で新星日本交響楽団のトランペット奏者、高橋敦さん。

高岡商業高校を卒業してから洗足学園魚津短期大学の管楽器科に進み、その後、川崎市の洗足学園大学に編入した高橋さんは、学生時代からその実力が買われて、NHK交響楽団をはじめ数多くのオーケストラに参加。昨年十一月には、日本で最も権威のある大会とされる日本音楽コンクール（トランペット部門）で、見事第一位に輝きました。課題曲は、難曲として名高いトマジのトランペット協奏曲。「多少のミスもあり、完璧というわけにはいきませんでした。自分なりの表現はできたと思います。後日、審査員の方に、「技術を超えたところでの音楽性を感じた」と言われた時は、本当に嬉しかったですね。

高橋さんが目指すのは、ソロ奏者として脚光を浴びることではなく、あくまでオーケストラ全体のの一員として必要とされる演奏家になること。「オーケストラ奏者には、指揮者の意図するところをくみ取った柔軟な演奏が要求されます。つまり、いろんな音楽表現の引出しを持ち、その時々に応じた演奏をしなければなりません。そこがソロ演奏にはない醍醐味でもありますね」。また、地元での演奏活動も積極的に行っていたという高橋さん。「富山には、お世話になった先生がたくさんいます。そんな故郷で演奏し、喜んでもらうことが、一番の恩返しになると思っています。また、県民の方々に認めてもらうことが、僕にとって何よりも幸せなことなんですよ」。

日本音楽コンクール第一位という成績の価値を、今後の演奏活動を通じてもっと高めていきたいと力強く語る高橋さん。その伸びやかで迫力ある音色は、多くの聴衆を魅了していくことでしょう。



2

CONTENTS

2月号もくじ

とやま遊学感	1
らいちょうバレースキー場	1
ひとアズとやま	1
新星日本交響楽団トランペット奏者	1
高橋 敦さん	1
とやま遊学感	2
撮影/赤羽仁諭(富山県写真家協会会員)	2
とやま遊学感	2
特集/知事対談	2
とやまの観光を語る	2
とやま女性総合センター(仮称)	6
4月オープン	6
PINUPPTOYAMA	8
写真/滝川邦彦(日本写真家協会会員)	8
詩/山本哲也(富山現代詩人会会員)	8
ふるさとみである記(井波町)	10
①八乙女風陣太鼓	10
②井波自然保護指導員の会	10
「へバチカ」	10
③旧井波駅舎	12
エッセイ/津田昭明	12
(富山市福祉ボランティア連絡協議会会長)	12
富山県の主要プロジェクト	13
非水産分野における深層水利用研究	13
県からのお知らせ	14
暮らしのアドバイス	16
とやまの祭り記	16
つごもり大市(城端町)	表3



▲あたり一面の銀世界



▲カプセルがずいぶん大きくなりましたね



雄大な自然のパノラマを満喫

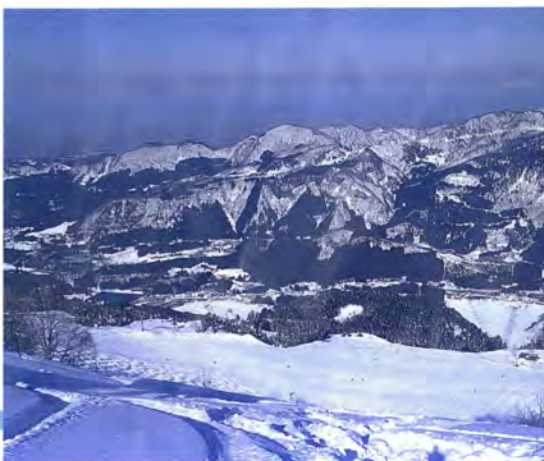
—らいちょうバレースキー場—

レポーター: 道正雅美さん(富山県立大学)

(表紙の人)



▲心地よい風を切って



眼下に見下ろす大パノラマ

今回私が訪れたのは、初心者から上級者までバラエティに富んだコースが自慢の、らいちょうバレースキー場です。

さっそく、同スキー場の高尾さんと一緒に、今シーズンから新しくなったゴンドラカプセルに乗り込みました。「以前の1・6倍広くなったので、ゆったりと座れるようになりました」と高尾さん。また、大きく変わった窓からグレンデに目を向けると、最近人気のスノーボードを楽しむ人たちが多いのに驚きました。

ゴンドラ山頂駅までは約八分で到着。幸いこの日はすっきりとした快晴で、山頂からは、コバルトブルーの空にくっきりと浮かび上がる純白の立山連峰や眼下に広がる富山平野、さらには遠く富山湾まで眺めることができ、その雄大さは言葉ではとても表わせないほどのです。

このスキー場には、初級者向けのユートピアグレンデ、中級者向けのパラダイスグレンデ、上級者向けのパノラマコースがあり、レベルに応じた滑りが満喫できます。各コースへはゴンドラリフトのほか、五基のリフトがスピーディーに運んでくれます。また、栗巣野スキー場、極楽坂スキー場との共通リフト券により、楽しさのバリエーションはさらに広がります。

皆さんも雄大な自然のパノラマを眺めながら、スキーやスノーボードを思いっきり楽しんでみませんか。

とやまの観光を語る

美しい自然や多彩な民俗芸能、個性的なイベント、美味しい味覚など、豊かな観光資源に恵まれている富山県。

今回は、日本旅行業協会富山地区会副会長でJTB富山支店長の林茂昭さんと、高岡市観光ガイドボランティアグループ「あいの風」代表の加須栄教子さんをゲストにお迎えし、二十一世紀の重要産業の一つであり、人づくりや地域づくりの面でも大きな意味を持つ「観光」にスポットをあて、中沖知事と語り合っていました。



富山県知事
中沖 豊

魅力いっぱい 観光資源

司会 富山に住んでいる私たちから見ても、富山県は多くの観光資源に恵まれていると思いますが、知事はどのようにお考えですか。

知事 おつしやる通り、富山県には立山・黒部の世界的山岳景観をはじめ、ホタルイカや蜃気楼で有名な「不思議の海」富山湾、世界遺産に登録された五箇山の合掌造り集落、日本一の禅宗伽藍として復元された瑞龍寺など魅力ある観光資源がいっぱいです。また、おわらやこきりこなど素晴らしい民謡も伝承されています。そして、きときとの魚や米、日本一の名水からつくられたお酒など、食べ物が美味しいことも大きな魅力ですね。

司会 県では、観光の振興のためにどんな施策を展開しているのでしょうか。

- 富山県知事
中沖 豊
- 日本旅行業協会富山地区会副会長
JTB富山支店長
林 茂昭
- 高岡市観光ガイドボランティアグループ
「あいの風」代表
加須栄教子
- 司会
小山憲一（富山テレビ）

この対談は、1月2日に富山テレビで放映した内容を要約したものです。



林 茂昭（はやし しげあき）

昭和40年、(株)日本交通公社（現JTB）に入社。同社福井支店営業課長、愛知県半田支店長を経て、平成7年2月から富山支店長に就任。日本旅行業協会富山地区会副会長でもある。

いきいき富山」をキヤッチフレーズに展開している「いきいき富山観光キャンペーン」です。県内観光地への入込客数は、キャンペーン開始前の五十七年に千二百万人だったものが、平成七年にはほぼ二倍の二千四百万人余りになるなど、大きな成果を上げています。

力ある観光資源でいっぱいだという点については、知事と同感です。富山県は日本の中央に位置し、東京、大阪、名古屋、札幌、福岡の五大都市や、歴史的につながりが深い函館とも航空路で結ばれていて、旅行業界から見ても大きな魅力です。陸路では、JRで東京、大阪、名古屋の三大都市から三時間あまりとほぼ等間隔となっています。また、五箇山の合掌造り集落が世界遺産に登録されたことで、富山県の観光は以前にも増して充実したと思いますね。

昨年、知事からお話があったように、DESTINEーションキャンペーンの実施や、国民文化祭をはじめとする大きなイベントの開催などもあり、県内の観光関連産業も随分潤ったのではないのでしょうか。

司会 加須栄さんのグループは、富山県の観光を草の根で支えていると思いますが、活動ぶりを紹介していただけませんか。

加須栄 私たちのグループ「あいの風」は、県内最初の観光ボランティアグループとして昭和六十年に誕生し、主に高岡市を中心に活動しています。メンバーは二十九人で、年間の活動



加須栄教子（かすえ きょうこ）

昭和62年に高岡市観光ガイドボランティアグループ「あいの風」に入会し、昨年4月から同グループ代表を務める。高岡市観光振興ビジョン策定委員会委員。日本海高岡なべ祭りや高岡万葉まつりの実行委員としても活躍。

は約九十回、ご案内したお客さんの数は昨年度で延べ二千三百人余りでした。受け入れるのは、小人数から大型バスの観光客まで様々です。平成元年からは、「あいの風」が案内する定期観光バス「万葉号」が走っているほか、万葉歴史館の館内ガイドもしています。私たちの活動がきっかけとなり、各市町村に次々とボランティアガイドグループが生まれ、現在二十近くにまでなっています。

通年型、滞在型が キーワード

司会 富山県の観光を今後さらに発展させていくためには、どのような課題があるのでしょうか。

知事 これまで観光といえば名所旧跡

特集/知事対談 とやまの観光を語る

知事 商売があまりお国自慢をしない習わしがあった売薬の伝統のせいか、どうも富山県民はPR下手だといわれています。しかし今は、もつとPRしていかねばならない時であり、県でもいろんな事業を進めています。代表的なものは、「いい人、いい味、

司会 林さんは旅行業界の一員として、富山県をどうご覧になっていますか。

林 私は富山に赴任して二年になりましたが、朝、家の窓から望む立山連峰、夕方は食卓にのぼる新鮮な魚と、富山での生活を満喫しています。富山が魅

とやまの観光を語る

林 観光地は、これから地域ぐるみでの魅力づくりが求められる時代になってきました。また、団体旅行よりも夫婦、親子といった家族旅行が増えてくると思われ、受け入れる側には、さらにきめ細かなサービスが期待されるで

知事 これからは、ハイテク、ハイタッチの産業、すなわち、先端技術型の産業と、観光や情報、デザインといった感性重視型の産業を育てることが大事です。特に観光は、人間の心と身体をリフレッシュし、人間性を回復するという大きな機能を持っていますから、二十一世紀に向け、ぜひとも発展させたい分野ですね。

司会 加須栄さんたち観光ガイドボランティアの皆さんの草

知事 おっしゃる通り、観光のパターンも随分変わっていくことが予想されます。県では現在、学識経験者の方に集まっていただいて「富山県観光推進懇話会」を設置し、観光のあり方についていろいろ検討していただいているところでです。



▼ デスティネーションキャンペーンのポスター

司会 今日はどうもありがとうございます。

知事 昨年の知事選挙では、県民の皆さんの力強いご支援をいただき、引き続き県政を担当させていただきますことになりました。大変光栄に思うと同時に、責任の重大さを痛感しています。これからも初心忘れることなく、県民奉仕の精神で全力を尽くしますので、ご支援、ご協力をよろしくお願いします。

林 私たちの調べでは、富山県へは台湾から一番多く年間二万五千人、次いで韓国から六千人の方が来ています。台湾の方の目的はアルペンルートが多く、春まだ雪が残る「雪の大谷」には大変感動されます。韓国の方の目的は夏山登山などが多いようです。

知事 今日はいきいき富山PRボランティア育成事業」などを通じ、県民の皆さんの熱意を応援していきたいと思っております。

県民ぐるみで観光振興を

知事 台湾や東南アジアの皆さんには雪に対する憧れがありますし、韓国の皆さんは、登山やスキー、温泉などに大変興味があると聞いています。今後、中国やロシアといった対岸諸国との交流が進むにつれ、観光客も増えてくるでしょうね。



加須栄 一度来たら友達を連れてまた来たくなるよう、お客さんを温かく迎える「ホスピタリティ」の意識を忘れずに頑張ります。

知事 今日はいきいき富山PRボランティア育成事業」などを通じ、県民の皆さんの熱意を応援していきたいと思っております。

現在、県や富山県観光連盟では、韓国や台湾でいわゆる出向宣伝も進めており、富山県の魅力を大いに売り込んでいます。

加須栄 一度来たら友達を連れてまた来たくなるよう、お客さんを温かく迎える「ホスピタリティ」の意識を忘れずに頑張ります。

知事 今日はいきいき富山PRボランティア育成事業」などを通じ、県民の皆さんの熱意を応援していきたいと思っております。

知事 今日はいきいき富山PRボランティア育成事業」などを通じ、県民の皆さんの熱意を応援していきたいと思っております。

また、富山県の場合は、立山黒部アルペンルートが代表的な観光資源である関係で、観光客が夏場に集中しがちです。しかし、夏だけ繁盛して冬寂しいというのでは困るわけで、これからは一年を通じて観光客に来てもらえる

加須栄 万葉歴史館などを案内していただきますと、これから和倉温泉へ泊まりに行くという団体などによく出会います。こんな時、高岡を通過していくんだなあと実感しますね。また、「食事どころが少ない」「宿泊施設が少ない」という声も聞きます。

加須栄 万葉歴史館などを案内していただきますと、これから和倉温泉へ泊まりに行くという団体などによく出会います。こんな時、高岡を通過していくんだなあと実感しますね。また、「食事どころが少ない」「宿泊施設が少ない」という声も聞きます。

加須栄 万葉歴史館などを案内していただきますと、これから和倉温泉へ泊まりに行くという団体などによく出会います。こんな時、高岡を通過していくんだなあと実感しますね。また、「食事どころが少ない」「宿泊施設が少ない」という声も聞きます。

加須栄 万葉歴史館などを案内していただきますと、これから和倉温泉へ泊まりに行くという団体などによく出会います。こんな時、高岡を通過していくんだなあと実感しますね。また、「食事どころが少ない」「宿泊施設が少ない」という声も聞きます。

加須栄 万葉歴史館などを案内していただきますと、これから和倉温泉へ泊まりに行くという団体などによく出会います。こんな時、高岡を通過していくんだなあと実感しますね。また、「食事どころが少ない」「宿泊施設が少ない」という声も聞きます。

加須栄 万葉歴史館などを案内していただきますと、これから和倉温泉へ泊まりに行くという団体などによく出会います。こんな時、高岡を通過していくんだなあと実感しますね。また、「食事どころが少ない」「宿泊施設が少ない」という声も聞きます。

加須栄 万葉歴史館などを案内していただきますと、これから和倉温泉へ泊まりに行くという団体などによく出会います。こんな時、高岡を通過していくんだなあと実感しますね。また、「食事どころが少ない」「宿泊施設が少ない」という声も聞きます。



加須栄 万葉歴史館などを案内していただきますと、これから和倉温泉へ泊まりに行くという団体などによく出会います。こんな時、高岡を通過していくんだなあと実感しますね。また、「食事どころが少ない」「宿泊施設が少ない」という声も聞きます。

加須栄 万葉歴史館などを案内していただきますと、これから和倉温泉へ泊まりに行くという団体などによく出会います。こんな時、高岡を通過していくんだなあと実感しますね。また、「食事どころが少ない」「宿泊施設が少ない」という声も聞きます。

加須栄 万葉歴史館などを案内していただきますと、これから和倉温泉へ泊まりに行くという団体などによく出会います。こんな時、高岡を通過していくんだなあと実感しますね。また、「食事どころが少ない」「宿泊施設が少ない」という声も聞きます。

加須栄 万葉歴史館などを案内していただきますと、これから和倉温泉へ泊まりに行くという団体などによく出会います。こんな時、高岡を通過していくんだなあと実感しますね。また、「食事どころが少ない」「宿泊施設が少ない」という声も聞きます。

加須栄 万葉歴史館などを案内していただきますと、これから和倉温泉へ泊まりに行くという団体などによく出会います。こんな時、高岡を通過していくんだなあと実感しますね。また、「食事どころが少ない」「宿泊施設が少ない」という声も聞きます。

加須栄 万葉歴史館などを案内していただきますと、これから和倉温泉へ泊まりに行くという団体などによく出会います。こんな時、高岡を通過していくんだなあと実感しますね。また、「食事どころが少ない」「宿泊施設が少ない」という声も聞きます。

加須栄 万葉歴史館などを案内していただきますと、これから和倉温泉へ泊まりに行くという団体などによく出会います。こんな時、高岡を通過していくんだなあと実感しますね。また、「食事どころが少ない」「宿泊施設が少ない」という声も聞きます。



加須栄 万葉歴史館などを案内していただきますと、これから和倉温泉へ泊まりに行くという団体などによく出会います。こんな時、高岡を通過していくんだなあと実感しますね。また、「食事どころが少ない」「宿泊施設が少ない」という声も聞きます。

加須栄 万葉歴史館などを案内していただきますと、これから和倉温泉へ泊まりに行くという団体などによく出会います。こんな時、高岡を通過していくんだなあと実感しますね。また、「食事どころが少ない」「宿泊施設が少ない」という声も聞きます。

加須栄 万葉歴史館などを案内していただきますと、これから和倉温泉へ泊まりに行くという団体などによく出会います。こんな時、高岡を通過していくんだなあと実感しますね。また、「食事どころが少ない」「宿泊施設が少ない」という声も聞きます。

とやま女性総合センター 4月オープン (仮称)

男女がともに自立し協力しあい、女性をとりまく問題の解決を進めながら「みのり豊かな男女協同社会」を実現するための活動拠点として、県が富山市の湊入船町（富山駅北）に整備を進めている「とやま女性総合センター（仮称）」が、この4月、いよいよオープンします。

愛称は「サンフォルテ」

同センターの愛称募集には国内外から3,000通を超える応募があり、「サンフォルテ」に決定しました。

この愛称は、サン（太陽）とフォルテ（強い）を組み合わせたもので、男女がともに自立し、太陽のように輝きながら男女協同社会の実現に向けて、力強く取り組んでいくことをイメージしています。

多様な施設機能

4階建て、延べ床面積7,640平方メートルの施設には、様々な機能が備わっています。

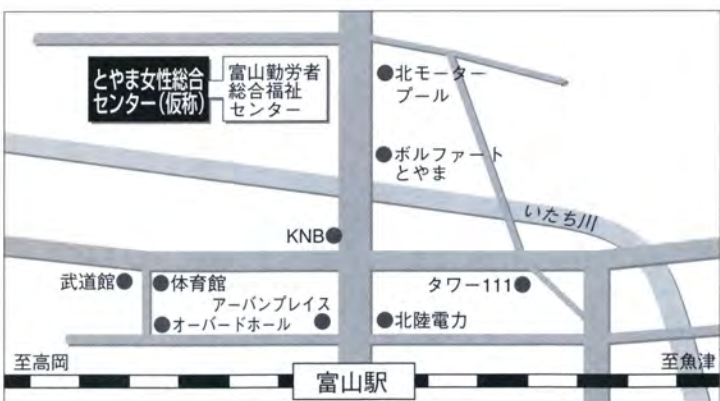
- 1階 情報とくつろぎの空間
女性問題に関する図書・資料・雑誌・ビデオを収集するライブラリー、相談室等
- 2階 体験と交流・ふれあいの空間
男女の固定的な役割分担意識にとらわれない新しいライフスタイルを求めて、調理や工作、介護等の実習ができる生活体験実習室、約350人収容の多目的ホール、グループ等の交流の場として利用できるミーティングスペースや団体交流室等
- 3階・4階 自己啓発と研修の空間
研修室、和室、OA研修室等

また、消費生活センター、婦人就業援助センター等も入居するほか、2階の連絡通路で連結する富山勤労者総合福祉センター（愛称…とやま自遊館）とも機能的な役割分担を図っていきます。

事業展開

この施設では、次のような様々な事業を展開します。

- (1) 企画・調査研究事業
企画・調査研究、啓発、人材育成を通じて、男女協同社会を推進する事業を展開します。
- (2) 情報コーディネート事業
女性問題、男女平等の推進に関する情報を幅広く収集・加工・提供し、県民の情報ニーズに応えます。
- (3) 相談・カウンセリング事業
女性の生き方・悩みごと、家族・人間関係、育児・介護、健康等に関する相談窓口を設け、カウンセリング等を行います。
- (4) 生活創造支援事業
男女協同による新しいライフスタイルを提案するとともに、消費生活や健康づくりへの支援、学習・能力開発事業を実施します。
- (5) ネットワークづくり支援事業
個人、グループ、団体等に活動の場と機会を提供し、交流や提携を進めることにより、ネットワークづくりを支援します。
- (6) 女性就業支援事業
女性・男性がともに働きやすい環境づくりを進めるとともに、いきいきと働く女性への支援を行います。



(財)富山県女性財団が設立

サンフォルテを拠点として、国・県・市町村・民間・女性団体等が連携し、女性施策を総合的に推進するため、昨年十一月、(財)富山県女性財団が設立されました。

財団では、男女協同社会の実現をめざし、情報提供、人材の育成、相談・カウンセリング、就業支援、ネットワークづくり支援など幅広い事業を展開していくことにしています。

サンフォルテ 登録グループ・団体を 募集します。

様々な分野で活動する県内のグループ・団体のネットワークづくりを支援します。

登録ご希望の方は、所定の申込書を請求のうえお申し込みください。

……… 問合せ・申込書請求先 ………

〒930-80 (住所記載不要)

県庁女性青少年課女性総合センター建設班

☎ 0764-44-9617

FAX 0764-44-3479



この風景は まるで箱庭だね
東京から やって来た詩人は こう言った
国のまほろば ただなづく 青垣 山隠れる
詩人は たしかに こう言いたかった
私は 彼の細い喉笛の底に
まほろば ただなづく 青垣 山隠れる
の単語のあることを 自覚しつつ
黙して 語らなかつた

もう 五十年前になろうか
松根油を掘りに この丘に
登ったときのことを思っていた
屋敷林は 木材供出で やせ細って
竹だけが 笑っていた
いま 屋敷林は 旧に復した と聞くが
枯れたり 伐られたり している
屋敷林の原風景は もしかしたら 私の
死後に見る 風景だろうか

PIN UP
TOYAMA
ピンナップとやま

冬の砺波平野

撮影／滝川邦彦 詩／山本哲也
写真プレゼントについては16ページ参照

井波町

◎井波町の概要 *****
瑞泉寺の門前町として発展し、芸術文化の里として名高い。井波彫刻は、二百年余りの伝統を持ち、国の伝統的工芸品に指定されている。町に響きわたる木彫工房からの槌音は、「日本の音百選」にも選ばれている。
また、俳人松尾芭蕉の門人だった瑞泉寺住職、浪化上人の遺徳を偲び、連句などの文芸も盛んである。



▲鴨野浩司さん

八乙女風神太鼓

若者による 熱い文化創造

富山県を代表する創作和太鼓グループとして県内外で活躍するのが八乙女風神太鼓だ。「若者が熱中できるものを創ろうと昭和六十三年に結成しました」と語るのは会長の鴨野浩司さん。初心者ばかりでのスタートだったが、京都在任の師匠、藤舎呂悦さん指導のもと特訓を重ね、平成二年に開町六百年祭でデビュー。その後、大阪花博や国民文化祭など全国規模のイベントにも出演してきた。



「井波の新しい伝統芸能として百年後も生き残るために、今何をすべきかをいつも考えています」と情熱を燃やす鴨野さん。平成四年からは、太鼓教室も開設。「幼稚園児やお年寄りを含む参加者が、ばちさばちから本格

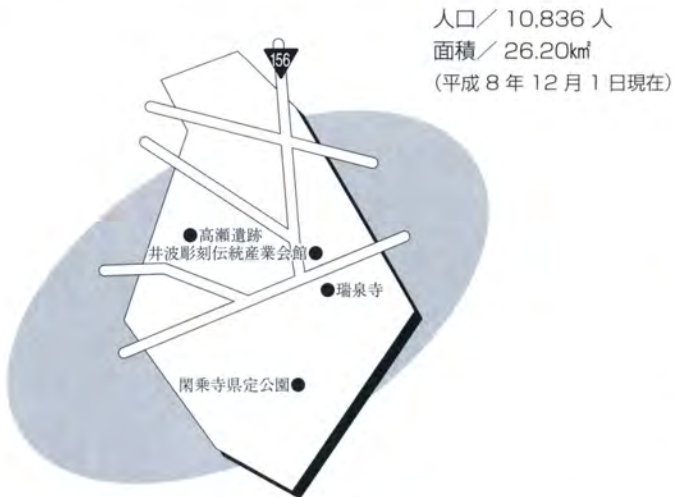


的なオリジナル曲『井波囃子』を練習し、世代を越えた交流も広がっています。また、このグループの特長は育成会と呼ばれる後援会が全面的

にバックアップしていること。育成会は町民を中心に五百人以上を擁し、グループの経済的、精神的な支柱となっている。現在は、四月の十周年記念公演に向け、会員四十人の猛練習が続く。「見た目が派手な和太鼓ですが、いつも『音』を大切にしていきたいですね」という鴨野さん。公演当日は、井波の町が熱い鼓動で沸き上がることだろう。



▲交流の輪をひろげる太鼓教室



人口 / 10,836人
面積 / 26.20km²
(平成8年12月1日現在)

郷土の魅力を再発見

井波自然保護指導員の会 “へパチカ”



井波の自然とその自然の中で育まれた歴史や文化を多くの人に伝えようと幅広い活動を展開しているのが、井波自然保護指導員の会 “へパチカ” だ。へパチカとは、町の花である雪割草の一種「すはま草」の学名。



▲藤井眞比古さん

「自然や歴史に関する調査を中心に、自然解説や植物の保護活動をしていきます」と語るのは、会長の藤井眞比古さん。これまで高清水活断層の調査や、八乙女山地の日本カモシカの生息調査などを行ってきた。「研究テーマは一人ひとりが個別に持ち寄りますが、調査は全員で行うので、各メンバーの関心もおのずと広がるんですよ」。藤井さんが興味を持っているのは八乙女山地から吹きおろす局地的な大風「井波風」だ。「当初は井波風の吹く原因を調べていたんですが、そのうちこの風が井波の文化や宗教にまで強く影響していることがわかったんです」と、藤井さんは目を輝かせる。このような調査結果は、昨年六月に井波で開催された富山県ナチュラリスト大会で発表された。「心ない登山者が、自生する草花を持ち帰らないようにパトロールするのも私たちの大切な役目です」と藤井さん。郷土を温かく見守りながら続くへパチカの活動は、これからも新しい井波の魅力を次代へ伝えていくことだろう。



▲郷土を温かく見守るへパチカの皆さん

思い出の駅舎が文化財に

旧井波駅舎



昨年十一月、旧加越線の井波駅舎が国の「登録有形文化財」として登録された。この耳慣れない「登録有形文化財」とは、国土の開発などにより、消滅の危機にさらされている大切な近代建築を守るために設けられた新しい制度。全国で百十九件が登録され、県内からは井波駅舎を含め四つの建物が選ばれた。

「井波の玄関」の文化的価値が認められ、大変うれいすね。」と語るのは、井波歴史民俗資料館の山森伸正さん。昭和九年に建築されたこの駅舎は、井波大工の棟梁で井波町最初の名誉町民、第六代松井角平氏の作品。「入母屋造りの屋根に楼閣を乗せた、寺院建築の粋を凝らしたものです。寺院風の駅舎は全国でも井波を含め二箇所だけなんですよ。」

駅舎内の欄間や隣接する電話ボックスに施された彫刻など井波らしさが随所に見てとれる。かつては、一日三千人も人が利用したこの駅舎だが、昭和四十七年に加越線が廃止され、その後は物産展示館やバス停として利用されてきた。「今回の登録を機に、多目的な利用方法を検討していきたいですね」と山森さん。思い出のいっばいだった旧駅舎が再び井波の顔となる日は近い。



▲山森伸正さん



▲欄間や彫刻に井波らしさが漂う

無尽蔵の資源を活かす

～非水産分野における深層水利用研究～



▲深層水に含まれるミネラルを分析（県食品研究所）

富山県では、恵み豊かな富山湾の多方面における利用を進めています。なかでも深層水は、その多様な活用が提案・研究されています。

水産分野では、平成7年度から水産試験場の深層水利用研究施設においてサクラマスやヤマエビの種苗生産などを行い、成果をあげています。そして、本年度からは、いよいよ非水産分野においても本格的な研究を開始しました。

深層水とは

富山湾の場合、海面近くの海水（表層水）に比べ、水深300m以深は水温2度以下に保たれており、この水塊は“深層水”と呼ばれています。深層水は、低温であることのほか、窒素やリンなどの栄養塩（植物プランクトンの栄養源）が豊富に含まれていること（表層水の4～40倍）、清浄であること（一般生菌数は表層水の1/1000～1/10000）、などの特徴があります。

県ではこれらの特徴を活かして、水産分野のほか、医薬・化学や健康産業など非水産分野でもその利用に向け次のような研究を進めています。

非水産分野での様々な利用研究

(1) 鮮魚保存への利用

深層水の低温性、清浄性を利用して、鮮魚を保存するための海水氷を生産する。また、ホタルイカ等を深層水を用いて凍結し、酸化防止効果による長期保存を可能にする。

(2) 健康飲料の生産

深層水に含まれるミネラルを活用した健康飲料・スポーツドリンクを生産する。

(3) 海洋微生物からの医薬品原料の抽出・生産

深層水や海底土壌の中の海洋微生物を培養し、その中から有用な物質を抽出して、医薬品原料を生産する。

(4) 海洋療法、アレルギー等皮膚性疾患への利用

清浄な深層水を利用した海洋療法による健康増進効果や医療効果を検証し、具体的な利用方策を検討する。

これらのほかにも、様々な用途で利用の可能性が期待されている深層水。富山湾は、深い海が海岸まで迫っているため、沿岸に近いところで深層水をくみ上げやすいという好条件に恵まれています。また、水温が低く、海水の組成も安定している点でも、国内の他地域に比べ優れた特性を持っています。

県では、これらの有利な条件を活かし、県内産業の振興を図るため、今後も積極的な利用研究を展開していきます。

ボランティア活動における私の座右の銘

ESSAY

富山市ボランティア連絡協議会会長 津田 昭明

第二次世界大戦の敗戦から、一、二年たった頃、肺結核で入院中の職場の先輩を見舞いに行った。帰りぎわに私が「職場のことは気にかけず、十分養生してください」と言ったところ、先輩は気色ばみ「気休めを言うな。俺には養うべき家族がいる。稼ぎ手の俺が職場を休んでいて、家族はどうやって生活するのか。俺がどんな思いで入院しているのかも考えずに勝手なことをいうな。お前の顔など見たくもない」と語気を荒らげた。私は追われるように病室を後にした。

病氣見舞いは、本来、病の床にある人を訪れてその人の抱く不安な気持ちを和らげるための行為であるのに、私は逆の結果を招いたことに深く恥じ入った。



▲ボランティアで子どもたちを対象とした工作教室を開催

敗戦により旧来の社会体制は崩壊し、生産現場も荒廃していた。物を造るにも、原料・資材がない。物資不足によりインフレが進み、日々の生活も苦しかった。給料の遅配は何か月も続き、時には指名解雇されたりもした。倒産も各地で見られ、いつそれが我が身に降りかかると、路頭に迷うことになるか分からないといった状況であった。

そんななか、先輩を見舞った私はまだ十九歳。人生経験も乏しく、先輩がどのような心境で闘病生活を送っているか考えもしないまま、通り一遍の言葉を掛けたため、先輩の心を苛立たせたのである。

お知らせ

「けんくす」1997年2月号発売

できるくいを叩くのではなく伸ばそうとの思いで、昨年産声を上げた県の職員の手による政策情報誌「できるくい」。今年も考えるくいは元気です。1997年2月号は2月1日発売。

今回の特集のテーマは、「イメージアップ」。イメージアップの定義から、期せずしてイメージアップに寄与した、あんなこと・そんなことまで。さまざまな視点で富山県のイメージアップを検証します。他にも政策提言やユニーク事業など、できるくいが盛り沢山。1冊750円で、県内主要書店、県刊行物センター(県民会館内)にて販売中です。

「第3回伝統医学セミナー」開催

食べ物には、体を冷やすものと温めるものがあるのをご存知でしょうか。このことは、漢方医学および食養生の基本ですが、栄養学的なことに比べて軽視されがちです。今回のセミナーでは、毎日の食事を通して、健康で快適な生活を送る知恵をご紹介します。(参加無料)

日時 2月19日(水) 午後2時～4時
会場 県民会館401号室
定員 約150名
講師 富山医科大学助教授 伊藤隆氏
テーマ 「漢方と食養生——冷やすこと、温めること」
問合せ 国際健康プラザ建設室
☎0764-44-9657

「富山県民会館学園 美術教室作品展」開催

県民会館美術教室(洋画・日本画・デッサン・バスデル画教室)の受講生による作品を紹介します。(入場無料)
日時 2月28日(金)～3月2日(日)

会期 5月22日(木)まで
場所 埋蔵文化財センター展示室
入館料 無料
問合せ 埋蔵文化財センター
富山市茶屋町206-3
☎0764-34-2814

「第7回花と緑の冬のフェスティバル」開催

あなたの冬は咲きますか。
冬の生活のなかに、花と緑を活用した豊かな生活スタイルを提案するとともに、花と緑の一層の普及を図るため、「花と緑の冬のフェスティバル」を開催します。皆さんのご来場をお待ちしています。
開催期間 2月9日(日)～11日(火)
場所 富山産業展示館(テクノホール)
内容 冬に咲く富山の花、市町村の花飾りなどの展示
・ラン教室、押し花教室などの各種教室
・切り花や花鉢、園芸用資材などの即売
・講演会、野点、図書販売 ほか
問合せ (財)花と緑の銀行 ☎0764-66-2425

「文化創造セミナー」開催

富山県の風土に根ざした文化を育むとともに、豊かな心と感性を養うため次のおり文化創造セミナーを開催します。

日時 2月18日(火) 午後6時30分～8時
会場 北日本新聞ホール
講師 大岡信(詩人・評論家・県民カレッジ特別客員教授)
演題 「文を作る——私の場合」
定員 250名(定員になり次第締切り)
入場料 無料(入場整理券が必要)
申込方法 富山県生涯学習カレッジ窓口で直接申込み
・官製往復はがきの往信面に郵便番号、住所、氏名、電話番号を、仮信面に郵便番号、住所、氏名をご記入のうえ申込み
申込み・問合せ
〒930 富山市舟橋北町7-1(県教育文化会館内)
富山県生涯学習カレッジ「文化創造セミナー」係
☎0764-41-8635 (内)231

「ひな祭り」開催

こどもみらい館では、こども歳時記「ひな祭り」を開催します。
いろいろなひな人形の制作コーナーのほか、クイズやフェイスペインティングを楽しむ体験コーナーなど、ひな祭りにちなんだ遊びのプログラムがいっぱいです。ご家族そろってご来館ください。
開催期間 2月1日(土)～3月2日(日)
午前9時30分～午後5時(毎週火曜日と月の第4水曜日及び祝日の翌日は休館)
場所 富山県こどもみらい館

募集

「いきいき友の会」会員募集

(財)富山県いきいき長寿財団では、「いきいき友の会」の会員を募集しています。同会では、情報誌「VITA」の無料配布や著名人を招いた講演会へのご招待、園芸や俳句、ダンスなどの講座の開催、旅行会の実施のほか、施設の利用割引カードの発行など、各種サービスを提供し、充実したシルバーライフを応援します。
資格 45歳以上の個人及び高齢者福祉に関心のある企業・団体
会費 個人会員 年会費 3,000円
個人ペア会員 年会費 4,000円
法人一般会員 入会金50,000円
年会費30,000円
問合せ (財)富山県いきいき長寿財団
「いきいき友の会」事務局
〒930 富山市舟橋南町5番14号
☎0764-32-6010
FAX 0764-32-6009

「経済指標のくんとくろ」(第19版)「発行

日常の主な経済問題、経済用語について、(いみ)で言葉の意味を簡潔に説明し、(たとえ)で最新の統計を用い、その具体例をあげ、(くんとくろ)で要点を丁寧に解説した、経済問題への入門書です。今回は、経済構造の調整、ベンチャービジネス、金融システムなどの項目を新たに追加したほか、内容の一層の充実にも努めました。県内の書店でお求め下さい。(A5版2色刷・220ページ・1,500円)
問合せ 県庁統計課 ☎0764-44-3190

「文様・記号・文字」開催

富山県埋蔵文化財センター企画展
埋蔵文化財センターでは、企画展「文様・記号・文字——出土品からのメッセージ」を開催中です。今回の展示では、原始・古代の人々が文様や記号などを取り返しのつかないものとしてしまっています。その恐ろしさを正しく認識し、絶対に使用しないようにしましょう。
問合せ 富山県警察本部生活保安課
☎0764-41-2211 (内)2474

啓発

「覚せい剤、大麻等薬物乱用の防止

覚せい剤や大麻等の薬物は、一度使用するとやめられなくなり、最後には心と体をポロポロにし、大切な人生を取り返しのつかないものとしてしまっています。その恐ろしさを正しく認識し、絶対に使用しないようにしましょう。
問合せ 富山県警察本部生活保安課
☎0764-41-2211 (内)2474

「消費用地下水の合理的利用を

毎年、降雪期には道路や駐車場等の消費設備の一斉稼働により、地下水位が大幅に低下する恐れがあります。消費設備の稼働にあたっては、次の事項に留意のうえ、地下水の合理的利用及び節水に努めましょう。
1 消費設備の管理者を定め、適切な散水に努めること。
2 降雪検知器の維持管理を徹底すること。
3 三段階散水方式やインバータ方式等の散水方式への転換に留意すること。
問合せ 県庁環境保全課 ☎0764-44-3144

みなさんの相談窓口

- 県政について
県民相談室 富山市新総曲輪1-7(県庁内)
☎(0764)31-4111(代) 31-3131(県民相談電話)
FAX 44-3300(県民相談ファックス)
高岡地方県民相談室 高岡市赤祖父211(総合庁舎内)
☎(0766)21-9411(代)
魚津地方県民相談室 魚津市新宿10-7(総合庁舎内)
☎(0765)24-5311(代)
砺波地方県民相談室 砺波市幸町1-7(総合庁舎内)
☎(0763)33-5151(代)
●物価ダイヤル
物価に関する苦情や相談があればお気軽にお電話ください。
☎(0120)16-7400(県庁県民生活課内)
●消費生活については
消費生活センター
富山市安住町7-18 安住町第一生命ビル内
〈一般相談は〉☎(0764)32-9233
〈金融相談は〉☎(0764)33-3252
消費生活センター高岡支所
高岡市本丸町7-1 本丸会館内 ☎(0766)25-2777
●交通事故については
富山県交通事故相談所東別館1階
☎(0764)31-4111 内4400
●相談110番
家庭問題・悪質商法・覚せい剤など、どんな相談にも応じます。
☎(0764)42-0110
●シルバー110番
高齢者や家族の心配ごと、悩みごとに富山県高齢者総合相談センター
富山市舟橋南町5-14 社会福祉会館内
☎(0764)41-4110
●よい子の育児電話相談
子育てに関して心配や悩みはありませんか。どんなことでもお気軽にお電話ください。
☎(0764)33-4150(県庁生涯学習室内)

県からのホットニュース

- テレビ広報
■チューリップテレビ 毎週土曜日 AM7:00～7:15
「ふるさとトーク」
■富山テレビ 毎週日曜日 AM9:00～9:30
「112万人のひろば—クイズ/フォーカス・イン」
■北日本放送 毎週日曜日 AM11:00～11:30
「こんなには富山県です」
2/2 美術館・博物館へようこそ
2/9 我がまちふるさと自慢 ～新湊市～
2/16 目指せ! 2000年国体の星
2/23 勇躍への第一歩
●ラジオ放送
■FMとやま「ふれあいホットライン」
県内各地からホットな話題をクリアなサウンドでお届けします。
毎週月～金曜日 AM9:50～9:55
●新聞広報
■北日本、富山、読売、北陸中日、朝日、毎日
毎月第2、最終土曜日
「県からのお知らせ」

平成9年 3月 街頭献血日程

日曜日	献血場所	時間
2日	小杉バスコ前	10:00～16:00
5日	福野アミュー前	10:00～16:00
7日	井波町役場前	12:30～16:00
16日	富山西武前	10:00～16:30
19日	魚津市役所前	9:30～16:00
21日	富山県庁	9:30～16:00
23日	ハッピータウン氷見店前	10:00～16:00
30日	北陸ジャスコ高岡店前	10:00～16:00

※都合により変更する場合がありますので、当日の新聞・テレビの街頭献血案内等でご確認ください。
●マリエとやま6階の献血ルームでは、月曜日を除く毎日(年末年始、マリエ休館日を除く)献血を受け付けています。
受付時間 全血献血 10:00～12:30 14:00～18:00
成分献血 10:00～12:00 14:00～17:30
●マリエ献血ルーム(TEL0764-45-4500)
血液センター(TEL0764-51-5555)

とやまの祭事記

二月



城端と五箇山との

交易の名残市

つごもり大市 (城端町)

毎年二月二十八日、城端町では冬の特売大市「つごもり大市」が開かれる。

この日、歩行者天国となる西町通り商店街は、お祭りムード一色。通りには、二十軒以上の露店が所狭しと連なり、近隣で採れた野菜、漬け物、山菜、鉢植えなどが威勢のいいかけ声とともに売りさばかれる。一般の商店も路上まで店を広げ、日用雑貨、食料品などを通常価格より安値で販売。商店街は終日多くの人々で賑わう。

この「つごもり大市」は、藩政時代の城端と五箇山との交易に端を発する。当時、五箇山の人々は雪が少なくなる二月末に城端を訪れて、生糸や和紙などを売り、その売り上げ金で米や塩、衣料、干し魚などの生活物資を買い求めた。これを目当てに市が立つようになったのが「つごもり大市」の始まりである。市では、近在の農民が冬季の家内仕事で作った筵や縄などの薬工品も売りに来たので、「むしろ市」とも呼ばれた。そんな市も、昭和初期を境に五箇山との商取引がなくなり、薬工品の製造も減少したことで、現在のような商店街の特売大市へとその性格を変えていった。

時代の流れとともに変貌してきたつごもり大市だが、そこに集う人々の笑顔とあふれる活気は、昔の名残を現在に伝え続けている。



▲ お祭りさながらに立ち並ぶ露店

暮らしの

アドバイス



暮らしの中での
ちよつとした疑問 / 石けん編

浴室で使用する洗面器などに白く付着する「石けんカス」の正体は？

A 石けんは、水中に存在するカルシウムやマグネシウム等の金属イオンと反応して、水に溶けない「金属石けん」を生じさせます。この現象は石けんを使用すると必ず見られます。いわゆる「石けんカス」とは、金属石けんに皮脂などの汚れが結合したもので、洗面器などに付着したり、比重が小さいため水面上に浮遊したりします。また、温泉のように金属イオンが多く含まれている硬水では、石けんが泡立ちにくい場合がありますが、これも石けん成分が泡立たない石けんカスに変化するためです。

Q

A 化粧石けんは製造されてから何年位使用できませんか？
化粧石けんは安定性が高く、長期間保存しても見開封ならば、香料、着色料等が変化することはあっても、石けん自体が変化することはないので、通常の使用には問題ありません。ただ、新鮮で豊かな香りを楽しむには、新しい製品の方が良いでしょう。なお、化粧石けんは薬事法の規制を受けており、未開封で3年間は品質が変化しないことが前提となっています。

Q

A 石けんが小さくなると、泡立ちが悪くなるのはなぜですか？
石けんは、ぬれた状態と乾いた状態の繰り返しが続きます。そのため、表面部分の結晶構造に変化が生じて溶けにくくなるうえ、石けんが小さくなるためにタオルや身体と石けんとの付着面積が少なくなると、泡立ちが悪くなるのです。

相談は、県消費生活センター、電話0764(32)9233、高岡支所、電話0766(25)2777

編集後記

★日本音楽コンクールで見事一位に輝いた高橋敦さん。入部の時たまたまトランペットが一つ余っていたのが高橋さんの運命を変えた。偶然見えたものが大発明のきっかけになり、友人に付き合われて部活の学に行ったのが一流選手への第一歩だった。そんな話はよくある。仕事にしろ趣味にしろ、自分の転機となった「偶然」を探ってみるのも面白いかもしれない。(K)

★二月といえば節分。「鬼は外、福は内」と我が家でも毎年必ず豆まきをして、年の数だけ豆を食べる。幼い頃は単に「豆まき」を楽しんでいたのがふと気づくとその後には食べる豆の数が年を重ねるごとに増えていき、その一粒がとても重く感じられる年齢になっていた。はたして豆の数だけ成長しているのだろうか？(A)

★最近、タクシイの女性運転手が増えている。これは女性客には大変うれしいことだ。気軽に世間話ができるし、道順についても相談しやすい。なんといっても安心して居眠りできるのがよい。今回の「みである記」取材地、井波町では、女性運転手が私の空腹を見かねてクリームパンをくださった。女性ならではの心温まるサービスで客の心を捉える。そんな素敵なお運転手に熱いエールを送りたい。(I)

今月号で掲載したPIN UP TOYAMAの写真を抽選で5名の方にワイド六ツ切(25×18センチ)でプレゼントします。希望される方は、官製ハガキで下記の様式でお申し込みください。平成9年3月24日消印有効です。

富山県広報課 写真プレゼント 2月号係あて	〒930
氏名	年齢
住所	
電話番号	
本誌を読んだ感想	

富山県のさかな シンボルマーク決定!

昨年、『富山県のさかな』に選定された「富山湾の王者」ブリ、「富山湾の神秘」ホタルイカ、「富山湾の宝石」シロエビのシンボルマークが決定しました。

県では、今後このマークをポスターやパンフレット、シールなどに幅広く活用し、本県水産業のイメージアップと水産物の消費拡大を図っていきます。



ブリ

ブリは冬の始めの雷鳴とともにやって来るといわれていることから、「ブリ起こし」の雷が表現されています。



ホタルイカ

ホタルイカは雪解けのころ沿岸を群遊することから、雪解け水が富山湾に流れ込む様子と新緑の立山が表現されています。



シロエビ

シロエビは春から夏にかけて多く漁獲されることから、夏の暑さを和らげる“あいの風”と夕日に照らされる立山が表現されています。

※シンボルマークには、ブリ、ホタルイカ、シロエビの単体のものと、3種が合わさった集合体のものがあります。

問合せ 県庁水産漁港課 ☎0764(44)3294